

令和7年度 豊島区立学校 学校評価 自己評価表

豊島区立 豊島区立駒込中 学校

評価対象者数 (人)			
児童・生徒数	保護者数	教職員数	地域の方
159	159	16	9

領域	豊島区教育ビジョン2025基本方針等	評価番号	評価項目	中間評価																学校関係者による評価		次年度に向けた改善策			
				児童・生徒				保護者				地域				教職員				自己評価概要	学校関係者評価の意見		標語		
				4	3	2	1	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0	4	3					2	1
II	就学前から小学校・中学校への円滑な接続	II-1	学校は、関係諸機関等(保育園や幼稚園、小学校、中学校)と連携を図ろうとしている。					50	32	5	0	0	4	5	0	0	0	11	5	0	0	連携小学校の5年生を対象とした中学校の授業体験を今年度初めて企画し、実施し、小学校からのとても好評だった。	小中連携のさらなる活性化、進化をこのまま続けてほしい。	A	体験授業、夏の学習ボランティア、ごみゼロデーの活動だけでなく、「義務教育9年間を見通した発信力の育成」を継続して連携していく。
I	確かな学力の育成	I-1	学校は、子どもの学力の定着・向上のために、分かりやすい授業を行っている。	児童・生徒を対象としたアンケート集計表をご参照ください。	37	44	6	1	0	0	3	5	0	0	0	10	6	0	0	研究発表に向けて学校全体で取組を行い、対話的・協働的な学びや生徒にとって分かりやすい授業、ICT機器を活用した探究的な学習を通して授業を改善することができた。	授業を参観していても、「わかりやすい授業」は、とても実感できた。さらなる学力向上に結びつく指導を期待している。	A	全教科で小集団での活動を積極的に設け、ICT機器を効果的に活用し、対話的・協働的な学習の場をより多く設定する。思考力・判断力・表現力の育成を目指すとともに、今年度同様、自分の考えを他者に使える力(発信力)を高めていく。		
		I-2	学校は、ICT機器やタブレット端末等の活用により、分かりやすい授業の実施や子どもの学びの意欲の向上に取り組んでいる。		36	45	5	1	0	0	3	5	0	0	0	8	8	0	0						
	豊かな心の育成	I-3	学校は、道徳科の時間を含めた全教育活動をとおして、互いの良さを尊重し合う温かい学校づくりを推進している。		49	37	3	0	0	0	4	5	0	0	0	11	5	0	0	発達段階に応じた道徳の指導を行い、お互いの良さを認め合い、良好な人間関係の形成につながっていた。また、自分の気持ちを相手に伝えるように発信できるようになっていた。	心の教育の効果は、すぐに見えてこないが、生徒の穏やかな様子は感じられた。継続して行ってほしい。	B	「考え、議論する」道徳を実践するために、授業改善を進めていき、今年度同様自分の気持ちを積極的に発信させる。さらに、生命の大切さをさらに考えさせるとともに他者を理解する心を育て、道徳的実践力を身に身に付ける指導を行う。		
		I-4	学校は、生命を大切にできる態度や思いやり、優しい心を育てている。		46	41	4	0	0	0	3	6	0	0	0	11	5	0	0						
	健やかな体の育成	I-5	学校は、子どもの体力向上や健康の促進に、積極的に取り組んでいる。		37	50	9	0	0	0	2	6	0	0	0	11	5	0	0	保健委員が、毎月衛生点検の取組を行ったり、給食委員が「食」に関するトピックスを校内放送や委員会新聞で紹介した。	給食を試食したとき、とてもおいしかった。生徒の給食への情熱は、「生きる力」だと思った。	A	今年度同様、教科等横断した健康教育に取組み、健康への意識をさらに高める。特別活動をさらに活性化させ、特別活動(学校行事)や部活動を通して体力向上を図る。		
		I-6	学校は、充実した食育指導を通して、健康教育に取り組んでいる。		40	45	7	0	0	0	5	4	0	0	0	16	0	0	0	食育の一環として、保健体育教員と養護教諭、栄養士による授業を行った。					
III	一人一人を大切に教育の推進	III-1	学校は、いじめ防止等(未然防止、早期発見、早期対応)に学校全体で組織的に対応している。	46	37	5	1	0	0	5	3	0	0	0	16	0	0	0	いじめアンケートやi-checkを活用し、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に向けた組織的な取組に努めた。さくらルームを有効活用し、生徒の居場所を確保できている。また、関係諸機関と連携し、生徒一人一人の状況や手だてを共有できた。	一人一人の生徒に寄り添っていることはとても感じられた。小規模校の良い面が生かされていると思った。	B	週1回特別支援委員会を定期的に開催する。「いじめ防止」や「特別支援教育」に関して学校だよりや保健だよりで実際に行っていることを周知する。そして、特別支援コーディネーターを中心に、巡回指導教員やSC、SSWなどと共同の組織を形成し、一人一人の特性を教職員すべてが深く理解し、子に応じた対応を行うことでインクルーシブな教育を実現する。			
		III-2	学校は、子ども達の気持ちを理解するために、一人一人に寄り添いながら、指導を行っている。	52	36	6	0	0	0	4	4	0	0	0	11	5	0	0							
		III-3	学校は、特別支援教育や発達障害等に関して、一人一人に適切な指導を行っている。	26	28	4	0	0	0	3	5	0	0	0	11	5	0	0							
V	教師力の向上と魅力ある学校づくり	V-1	学校は秩序があり、子ども達は落ち着いて学校生活を送っている。	43	40	11	1	0	0	3	6	0	0	0	8	6	2	0	生徒や保護者アンケートの結果からほとんどの生徒は落ち着いて学校生活を送ることができている。また、V-2の項目は、昨年度より6ポイント上回っており、来年度も継続して行う。	学校全体、大変落ち着いていると感じる。今後もSNS関連のリテラシー育成を継続してほしい。	A	保護者や生徒、地域の学校評価の結果を分析し、PDCAサイクルによる学校改善を一層推進させる。保護者や地域の方の意見や要望を受け止め、地域での生活の仕方の指導を継続して行う。			
		V-2	学校は、保護者や地域の方の意見や要望を受け止め、学校改善に生かしている。	49	33	4	0	0	0	2	7	0	0	0	11	5	0	0							
	家庭・地域との連携	V-3	学校は、学校や子ども達の様子を、学校だよりやホームページ、学校公開等によって、分かりやすく伝えている。	56	37	2	2	0	0	6	3	0	0	0	16	0	0	0	ホームページや学校だより、学年だより、としま土曜公開授業等を通して、開かれた学校づくりに取り組むことができた。来年度も継続して行う。	「学校だより」を毎月楽しく拝見することができている。地域連携に協力できるように活動をしていきたい。	A	今年度同様、ホームページや各種たよりの充実にも地域への周知を図る。また、教育センターや児童相談所等とも継続して連携を行う。来年度は、コミュニティスクールとなり一層の地域連携を図り、学校運営の充実を図る。			
		V-4	学校は、家庭や地域と協力しながら子どもを教育している。	53	33	5	0	0	0	6	3	0	0	0	11	5	0	0							
	特色ある教育活動	V-6	学校は、生徒の発信力の育成に関する教育を推進している。	42	42	6	0	0	0	7	2	0	0	0	16	0	0	0	昨年度より20ポイント上回っており、学校全体で特色ある教育活動を行っていたことを保護者に伝えることができた。	「発信力」を意識した学校全体の取組は、素晴らしかった。来年度も継続して行ってほしい。	A	来年度も「発信力の育成」を意識した指導を継続して行い、生徒の成功体験を重ねることで自己肯定感を高める指導を行う。			
	IV	働き方改革	IV-1	学校は、校務支援システムの活用や「チーム学校」を意識した業務分担等により、組織的に業務の効率化・最適化を目指して取り組んでいる。										8	8	0	0	各分掌、学年「チーム学校」を意識して組織的に取り組むことができています。業務量の効率化に一層の改善が必要である。	先生方の仲の良い様子がよくわかります。忙しいとは思いますが、来年度もチームワークを継続してください。	B	外部人材との連携や業務分担の効率化、デジタル化を一層推進させる。				

※学校関係者による評価の評語は、自己評価結果について以下の視点で行う。 A 評価は妥当である B 評価はおおむね妥当である C 評価は妥当ではない D 評価方法を見直す必要がある